

教育奨励賞



高尾 総司

略 歴

- 1996年 3月 岡山大学医学部医学科 卒業
- 2000年 6月 岡山大学医学研究科 修了
- 2000年 9月 岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座 リサーチ・レジデント
- 2001年 4月 岡山大学大学院医歯学総合研究科 衛生学・予防医学分野 助手
- 2007年 4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 疫学・衛生学分野 講師
- 現在に至る

研究論文内容要旨

2001年4月に医歯学総合研究科衛生学・予防医学分野（現疫学・衛生学分野）助手就任後より、学部教育・大学院教育に積極的に関与してきた。

学部教育では、医学部衛生学講義の講義題目の管理をするだけでなく、衛生学講義へ「ケースメソッド」という新しい講義スタイルを導入し運用を担当してきた。ケースメソッド教育とは、従前の講義形式による座学ではなく、実際に起こりうる具体的な事例に関し、学習者が自分たちで分析し討議するというインタラクティブな授業形式であり、そのような学生主体のアクティブラーニングを2002年より導入し授業の活性化をはかってきた。このケースメソッド教育は高く評価されており、書籍「ケースメソッドによる公衆衛生教育」にも、事例として岡山大学での授業内容が紹介されている。また、医学研究インターンシップにおいても、ハーバード公衆衛生大学院への学生派遣を担当している。2010年以降、毎年コンスタントに学生が渡航し、貴重な経験を得ている。その他、医学統計学の講義においても、授業題目の検討を一手に担っている。

大学院教育でも、医療ビッグデータの活用やデータサイエンスという言葉が注目される以前より、疫学・衛生学分野として疫学・基礎統計学・医療統計学などの講義題目を授業に導入し、その題目作成の中心的な存在を担ってきた。このような大学院講義は、大学院生の研究活動を活発にし、授業・演習を通じた臨床分野との共同研究から複数の論文も出版されている。また、新設された公衆衛生大学院（MPH; Master of Public Health）コースや疫学・衛生学分野の大学院生指導にも積極的に関与してきた。

学部・大学院教育にくわえて、医師に対する医学教育として、産業医基礎研修会も集中形式にて開催し、卒後の医学教育へも積極的に関与している。

医学・公衆衛生領域において、先進的な教育事例の導入、データサイエンス教育の実施、産業医教育を通じた卒後教育と幅広く医学教育に寄与してきた。